



Johan Frederik van Overmeer Fisscher
Bijdrage tot de kennis van het Japansche rijk
Amsterdam, 1833
フィッセル著 『日本国の知識に関する寄与』

本書の著者は、ヨハン・フレデリク・ファン・オーフェルメール・フィッセル(Johan Frederik van Overmeer Fisscher, 1799-1848)。鎖国政策下の江戸時代、長崎出島のオランダ商館員として1820年(文政3年)に来日し、1829年(文政12年)の帰国まで、9年の長きにわたり日本に滞在した。1822年(文政5年)には、商館長の江戸参府に随行している。

出島での生活、日本人との交流、江戸への旅を通して、フィッセルはその観察眼を日本の幅広い分野に向け、多くの見聞、資料を得た。オランダ帰国後、彼はそれらをもとに執筆を進め、日本滞在の成果として1833年に本書を刊行する。

簡明な記述により、多岐にわたる内容(地誌、言語、絵画、宗教、兵学、娯楽、衣食住、日々の暮らしぶり、動植物、手工業、建築、船舶など)が1冊に収められており、西洋人の目を通して見た当時の日本の様子を興味深く今日に伝えている。

なお、本書は幕末の日本国内でも、天文方 山路諧孝(1777-1861)監修のもと、蘭学者 杉田成卿(1817-1859)、箕作阮甫(1799-1863)らにより『日本風俗備考』として翻訳、刊行された。